

ベストピア Bestopia

辻・本郷税理士法人
小田原支部
小原靖夫
〒250-0011
神奈川県小田原市栄町 1-8-1
TEL 0465(30)2100
FAX 0465(30)2101

平成二十二年九月
第二八三号

1. 国勢調査

来る 10 月 1 日、5 年に一度の国勢調査（第 19 回目、初回は大正 9 年）が実施されます。

本年の調査は、人口減少社会になって初めての調査という意味で、特に注目を浴びることになりそうです。

国勢調査の最前線で活動するのが調査員で、総務大臣から任命書が渡されます。平成 22 年 9 月 1 日から 10 月 31 日までの 2 ヶ月間、俄か仕立ての国家公務員の身分になるということです。給与がいくら出るかは判りませんが（判明次第掲載します）恐らく最低賃金に満たないでしょう。

その調査員に私が任命されたことによって、また知らなくてよい行政の怠慢に直面しています。

調査員は個人情報の取扱いを含む研修を受けなければなりません。100 名位の集合研修に参加して、びっくりしたことが多々あります。

まず、国が作成した DVD を 30 分間見せられますが、その内容はそのまま役人達に言ってやりたいことが満載されています。

次に、市の職員からの説明が更にひどい！マニュアル通りの読み上げに私は腹が立ち、罵声に近い大声で「何を言っているのか判らない」、しかし説明はマニュアル通りに進む。負けじと「もっと説明を工夫しろ」、私が本当に怒っているのが判ったのか、10 数枚の書類の一つ一つの説明が変わった。しかしそのトーンたるや集まっている人々を、こんなことが判らないのかといった侮蔑に満ちた調子に私には感じられた。

席上数人の人が質問されたが、とにかく家に戻って、「復習してください。全て書いてありますから」という答えが多く帰ってくる。

私の隣の人も手を挙げたが、時間が 30 分オーバー（その源は私にあるようだが）しているので、マニュアル通りに終わっていないので集結を急いでいるらしい。私は隣の人に「質問されたらいかがですか」と勧めたら、「あとで職員に聞きに行くからいいんです」と答えられた。この答で私はあるひとつのことに気づいた。集まった人の多くは、市の職員と親しい方々なのだ。「何でも後で」個人的な会話が解決するのだと。だから市の職員は忙しいと言うのだと。彼らは新大阪に速く着きたい為に「新幹線の中で走っていて、忙しい忙しい」と言っているのだと。

何のための研修なのか、研修の目的は何か、何を相手に理解してもらいたいのか、微塵の工夫も感じられない。そのことによって、余分な仕事を作っている。相手に判ってもらいたいという情熱も感じられない。上から言われたことだけをマニュアル通りに伝えているに過ぎない。

私の受け持ちは結果的に 36 軒でした。土曜日の午前中 4 時間、夜 2 時間をかけ、更に翌日の日曜日 1 時間かけて、全軒に個別面談配賦を完了しました。

土曜日の夜は暗くなりすぎ、妻が犬に噛まれるという被害を受けてしまいました。このような危険は予測されており、視聴した DVD でも注意が喚起されていました。注意されていたにも拘らず起きるのが事故です。速く終わらせねばならないという義

務感が、危険を冒してしまったのです。

私は調査員の任命の前に頼まれた段階で、「こんな嫌な仕事を民間に押し付けてけしからん。この仕事は本来職員の仕事でしょ！あなた方が現場に出て実態を感じ取ったら 100 歳以上問題など発生しないはずだ」と毒づいていました。

監査委員も 3 年を終わり、最後の 1 年になりましたが、どんなに私が力を入れて発言しても、何ら変わらないのが役所という行政の場です。ましてや県レベル、国レベルでは変化など望めそうにありません。

2. 憲法改正国民投票法

そんななかで確実に変わろうとしている不気味な一つの流れがあります。それは憲法改正国民投票法の実現に向けた動きです。平成 22 年 5 月 18 日の施行にあわせて国民投票に必要な経費がすでに各市町村に送金されており、リーフレットも配布されています。広報の予算は 2300 万円ということです。

表面的には周辺法案の整備が進んでいないこともあって、進んでいないように見えますが、予算配賦が先行して実施されていることは事実です。そしてこの法案を通すために生まれた安倍晋三元首相の最近の TV における発言から、目的は 9 条の改正、自分の国は自分で守る、そのために必要なのは軍備であることを明確に話しをされている。そのために必要なことは即時的同一化であるとまで発言している。民主党が分裂し、大連合政府にでもなれば、改憲派が多数となり国民投票となる。国民投票は投票者の過半数が賛成であれば憲法改正が実現することになっている。

現下における多くの国民の関心は、経済

問題・景気の回復であって、憲法改正にまで気を廻すことが困難な状況です。長引くデフレの先に何があるのか。不安を募らせるだけでなく、この暗闇にあってもなお、将来に希望を持って焦点を合せる冷静な判断が一人一人に望まれる。

行政に携わって、そんなことを考える日が多くなっています。

3. 息子たちのこと

今日は久しぶりに孫娘の、ほのかから作文が届きましたので掲載します。

本年 4 月に静岡県藤枝市から兵庫県宝塚市へ引越しをして、中学生になりました。8 月には家族 4 人全員が貴子の母方の祖父の養子となり、姓が龍見となりました。

家族は豊かに恵まれ、守られて生活をしており、9 月 15 日から息子も新しい職場「希望の家」に勤務することになりました。

来るべき難しい時代を生き抜く指針が与えられたような家族です。二人の孫は九州での農民時代に生まれ、小田原、静岡、そして宝塚へと移動しています。それぞれの地で良い友に恵まれ、すでに宝塚には九州の農業の師匠、静岡の大家さんがそれぞれ家族で訪問してくれています。

私自身は社労士の試験や海外旅行と、その合間の仕事が忙しく、宝塚にはなかなか歩が伸びませんが、行くところが増えて楽しみな老後になっています。

4. 孫の作文

『高齢者とのコミュニケーション』

龍見ほのか

私の家族は、4月からひいおじいちゃんと一緒に住むことになった。私のひいおじいちゃんは八十八才で、私たちが来る前は一人で暮らしていた。今は、家族が増えて、ひいおじいちゃんも私も楽しく暮らしている。

ひいおじいちゃんと暮らせるようになって良かったと思うことがある。それは、ひいおじいちゃんと色々な事が話せる事だ。例えば、ひいおじいちゃんの話は、昔の生活の事や戦争の時の事などを教えてもらったりして初めて知る事がある。反対に私からは、学校での出来事などの話をしている。こうやって、会話をする事が楽しいからだ。

私たちは、得意な事があったり、好きな事があったりする。それは人間、誰でもあると思う。例えばお年寄りの方だったら、お手玉をする事や筆などで字や絵を書く事、散歩をする事、昔の話をする事などなど得意な事、好きな事があると思う。このように、ひいおじいちゃんにも得意な事がある。ひいおじいちゃんの得意な事は「話をする事」だ。歴史の話や昔の話をするのが得意だ。昔の町の様子や戦争の時の話を教えてもらった事があって、「へえー、そうなんだ」と思う話がたくさんある。こんな会話を出来る事が、ひいおじいちゃんの楽しみだと思う。なので、ひいおじいちゃんが「楽しい」と思える時間をこれから大切にして行きたいと思う。

ひいおじいちゃんだけでなく、お年寄りの方には、健康で、「楽しい」と思える時間を大切にしてもらいたいというのが、私の願いだ。

最近のニュースで、高齢者の行方や所在がわからなくなったり、たくさん的高齢者

の方が亡くなっているというニュースが出ていた。私はこれを見て、「なぜこんなに所在が分からなくなるんだろう？」と不思議に感じた。でも少し考えてみると、会話が足りてなかったんじゃないかなと思った。どの家庭でも色々な事情があると思う。しかし共通して言える事は「会話が足りなかった」と言う事だと私は思う。会話が足りないと言う事は、健康や日常生活に影響が出て、病気などにもかかわる事があると教わった事がある。つまり誰とでも「コミュニケーション（会話）」が必要だと思う。これは赤ちゃんでも、私たちの間や、もちろん高齢者でも言える事だ。コミュニケーションをとる事で、笑って楽しい時があったり、悲しい時があったり、うれしい時があったりというものが誕生する。

だから、コミュニケーションを増やしていけば、毎日の生活が少しでも明るく、楽しくなって行くと思う。そして、「明るく、楽しい時間」を大切にして行きたい。

これからも私は、お年寄りとのコミュニケーションを、とつても大切にして行きたい。そして会話をしている時間を大切にしたし、お年寄りの方が「楽しい」と思える時間をたくさん作って行ってほしいと思う。ひいおじいちゃんも地域のお年寄りの方にも長生きが出来るよう見守って行きたい。